



研究者総覧：河村 雅隆 (KAWAMURA, Masataka)

| | | |
|-----------|--|--|
| 氏名 | 河村 雅隆 (KAWAMURA, Masataka) |  |
| 職名 | 教授 | |
| 所属講座 | メディアプロフェッショナルコース | |
| 学位（専攻分野） | 学士（経済学）・東京大学 | |
| メールアドレス | kawamura@lang.nagoya-u.ac.jp | |
| 個人のホームページ | http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/staff/kawamura.html | |
| 研究分野 | メディアおよびメディア史研究 | |
| | メディアを通して見るアメリカ・ヨーロッパ社会論 | |
| 現在の研究テーマ | アメリカ・ヨーロッパ・日本の比較放送論、比較放送史 | |
| 所属学会 | 日本マス・コミュニケーション学会 | |
| 主要著書・論文 | 『ドキュメンタリーとは何か～テレビ・ディレクターの仕事～』（ブロンズ新社、1995年） | |
| | 『驢馬は旅に出て～ロンドンからの眺め～』（同上、1993年） | |
| | 『フランスという幻想～共和国の名の下に～』（同上、1996年） | |
| | 『揺れる歴史の振り子～ヨーロッパ 戦前 戦中 戦後～』（同上、1998年） | |
| | 『放送が作ったアメリカ』（同上、2011年） | |
| 自己紹介文 | <p>長年、放送関係の組織で、番組の制作、メディアミックス、海外発信などに携わってきました。その中で、日本や欧米のメディアの歴史や特質、メディアに現われたそれぞれの社会の姿などに強い関心を持ってきました。</p> <p>特に力を入れて学んでいるのが、アメリカを軸とした世界の放送および放送史の比較研究です。放送の初期から現在に至る問題を、放送内容そのもの、産業としての放送、政府・軍事・新聞と放送との関係、表現の自由などを切り口にトレースしています。</p> <p>それらの検討を通して、単に放送やジャーナリズムを学ぶのではなく、その背景にある歴史や政治、文化も深く学んでいきたいと思えます。</p> <p>メディアやメディアの勉強にとって、日本国内だけで完結することなどひとつもありません。これまでアメリカ、ヨーロッパ、日本各地で経験してきた経験を踏まえ、ご一緒に視野を広げていきたいと願っ</p> |  <p>番組の国際比較も論じた</p> |

| | |
|-------------------|--|
| | <p>ています。</p> <p>NY のテレビジャパン勤務時代のブログ (http://blog.tvjapan.net/) と名大インターネット TV 「スタジオチャンネル」 (http://www.media.nagoya-u.ac.jp/sc/) もご覧下さい。</p> |
| <p>受験生へのメッセージ</p> | <p>すぐに役立つことは、すぐに役立たなくなると思います。物事にはすべてつながりがあり、過去があるから今があり、今があるから将来があります、放送という、限りなく「今」というテンスの影響を受けざるをえないメディアにおいてこそ、現在そこにあるものを成り立たせている要因や背景を知ることが重要です。</p> <p>放送や報道の仕事に携わろうという人間に最も求められるのは、トータルな「人間力」です。歴史や政治、経済、文化など、幅広い教養と見識を備えた放送人、ジャーナリスト、研究者がこのコースから一人でも多く育ててほしいと願っています。</p> <p>授業では、メディアの歴史を縦軸に、日米英中などの比較相違を横軸に取った、多面的立体的な展開をめざしています。各国の分析や最新情報については、その地域出身の留学生諸君の積極的な参加と協力を求めています。</p> <p>メディアを歴史や社会との関連の中において学びたい、という方のお出でをお待ちしています。一緒に勉強しませんか。</p> <div data-bbox="1061 501 1331 900" data-label="Image"> </div> <p>国民国家とは何かを分析</p> |

Last updated: 24 April 2013.